3.2 モンキーレンチ(Monkey Wrench)

（１）あごの部分が取っ手と直角になっているモンキーレンチは発明者 Charles Moncky の名にちなんで命名されたが、いつの間にか転訛して monkey wrench と綴るようになった。

A. ~~A~~ *The*[1] monkey wrench – the jaws and ~~handles~~ *handle* form a right angle – was named after[2] its inventor, Charles Moncky. But now [3] it ~~slipped~~ *evolved* into ~~a different spelling,~~ “Monkey wrench”.

1 発明品の総称として挙げるときは the をつける。
2 derives its name from としてもよい。
3 ここ以降を前文に続けて、whose last name was eventually corrupted into “monkey” とも書ける。「いつの間にか」に eventually 又は、now が使える。結局、最後にというのはいつの間にか起こっていることになる。

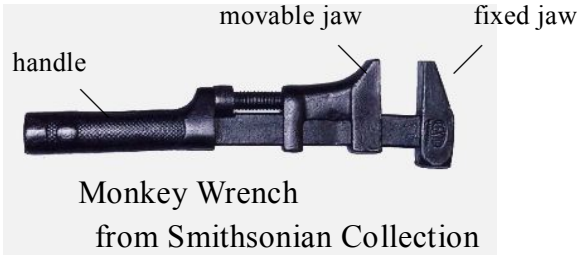
B. A wrench[1] with its ~~jaw~~ *jaws*[2] right-angled [3] to ~~the~~ *its*[4] handle originally named after its inventor, Charles Moncky, but time has changed the ~~wrong~~ *original* spelling *into* “Monkey wrench” ~~into correct~~ [5].

1 この場合は A でよい。
2 複数形
3 at right angles とも書ける。冠詞は不要。複数なのはいろいろの角度があるから。
4 its または、a
5 おもしろい書き方で良い。

Wrench の定義：
Wrench is any of various hand or power tools with fixed or adjustable jaws for gripping, turning, or twisting an object such as a nut, bolt, or pipe.

Monkey wrench の定義：
An adjustable screw wrench having one fixed jaw and one adjustable jaw positioned at a right angle to a handle

NOTES:
normal line: 法線
転訛：元の意味は訛り、発音についての意味のはず、しかし、最近は綴りにも使う。



Monkey Wrench
from Smithsonian Collection

水上語録

私にとって外人チェッカーとは

当初、私のたたき出した原稿は当然のことながら３人のアメリカ人の手によって朱にそまり、ほとんど原形をとどめず、といった風情であった。しかし、日を重ねるにつれてチェック箇所が目に見えて少なくなり、いつこの仕事から追い出されるかという私自身の悩みは消えていくかのようであった。私は大いに気を良くした。ある日、居酒屋で一杯やりながら部長は私に諭した・・・アメリカ人は日本語の原文とつき合わせて英文を読んでいるわけではないから、訳者が何を書いても内容のチェックは不可能だ。君のはどちらかというと優等生の英作文になっている。英文の形はととのっているから直しようがない。チェッカーのために英語を書いているなどと思うな。原文の主張する考え方をこんな英語でしか表現できないが、この苦心を察してくれないか、という気概をもつべきだろう。ここには思う存分アカを入れてほしい、とチェッカーに要求する姿勢が大切だ。これは痛かった。私は以後、部長に頭が上がらなくなった。作品は再び真っ赤に染まるようになった。だが、このアカは私の求めるアカであり、徒弟時代の修行としては、ほんものの戦いが始まったのである。チェックの数におびえ、チェックの内容に迫ることができなかった私にとって、これは貴重なカタルシス体験だった。 (OSTEC ジャーナル第８号・１９９９年１１月)